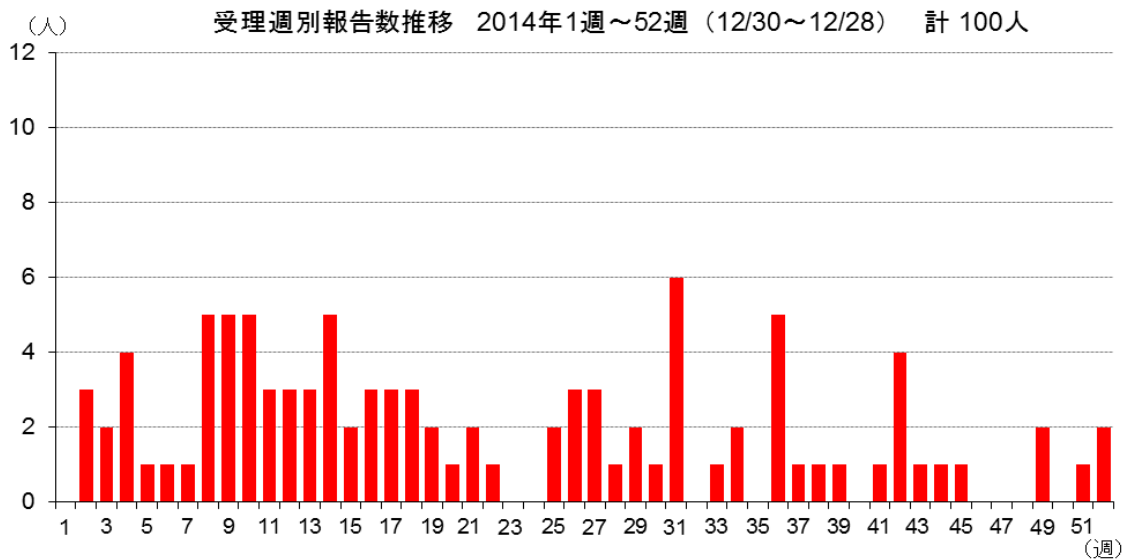


都内における風しんの発生状況（2014年1週から52週）

東京都健康安全研究センター

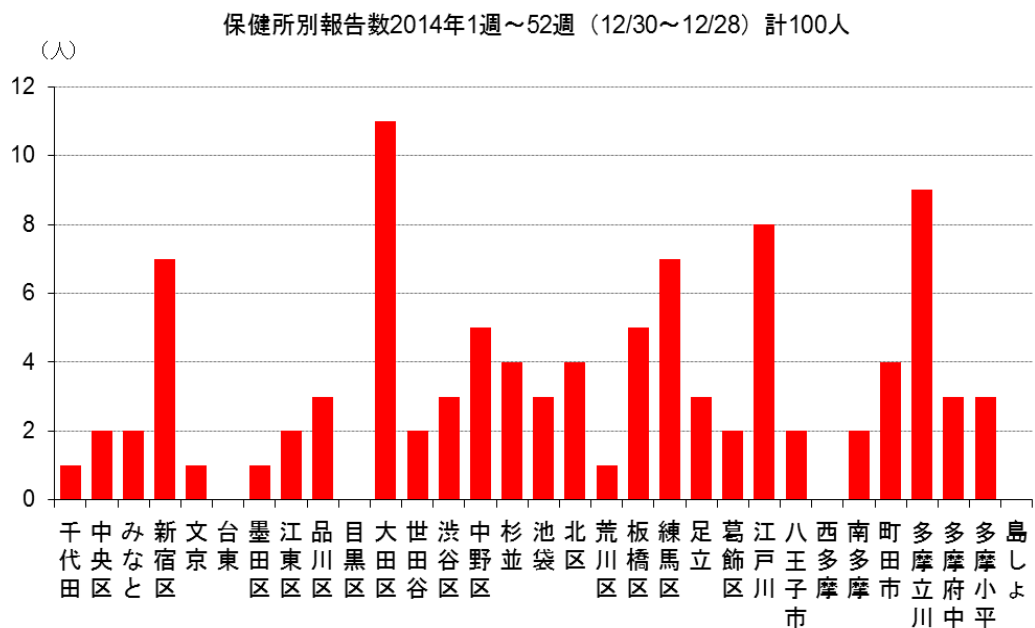
1. 患者報告数の推移

2014年の年間累計報告数は100人であった。2週から22週までは毎週1人から5人の報告で推移し、25週以降は31週の6人をピークに減少し、43週以降は0人から2人の報告数であった。



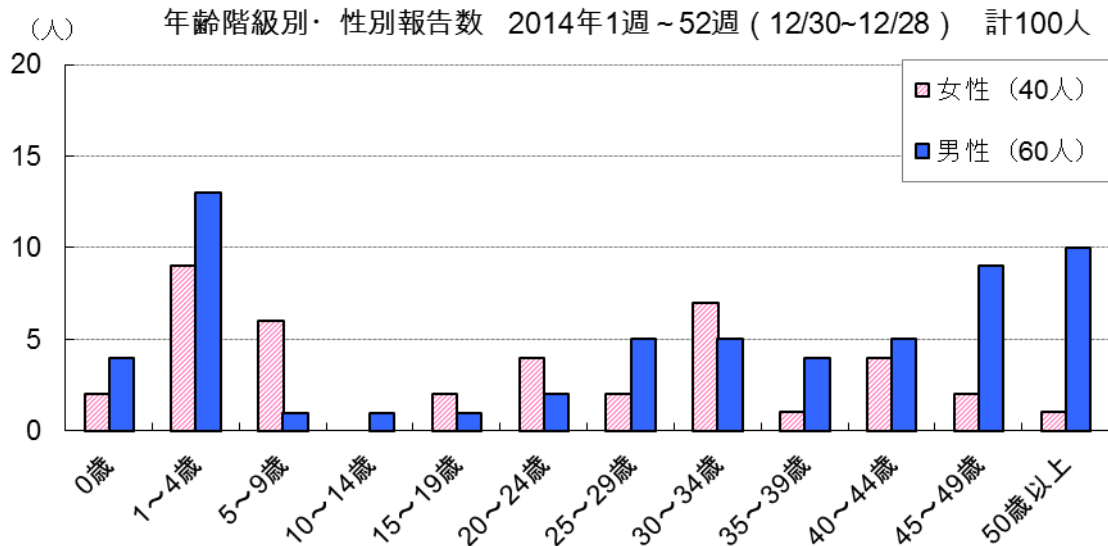
2. 保健所別報告数

29保健所中25保健所から報告があり、報告数が多い保健所は大田区保健所（11人）、多摩立川保健所（9人）、江戸川保健所（8人）、新宿区保健所及び練馬区保健所（7人）であった。



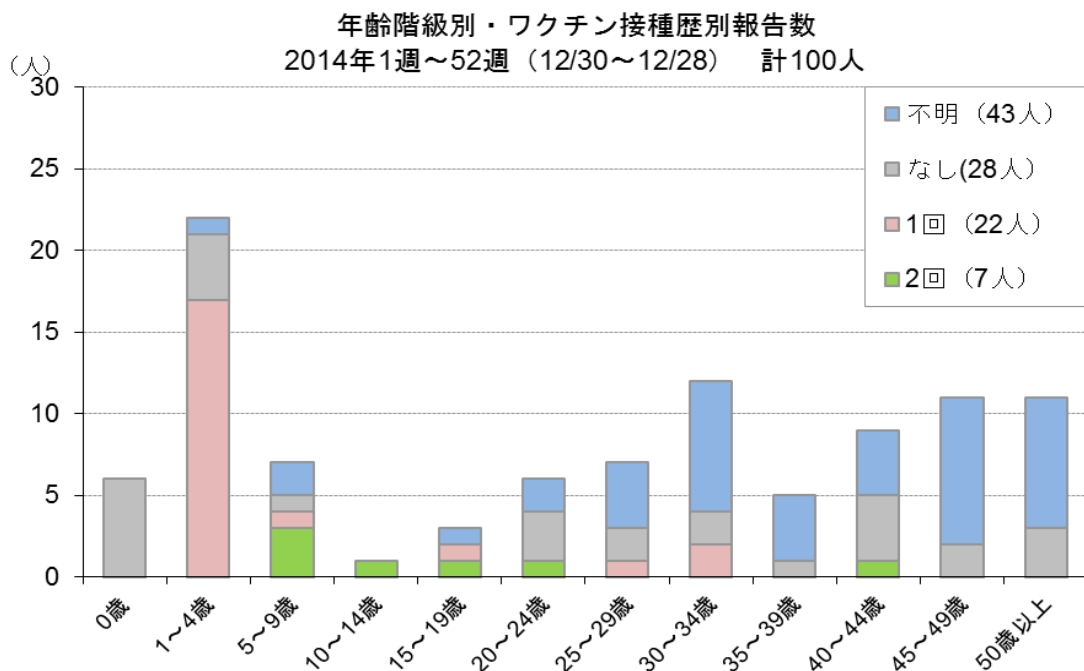
3. 年齢階級別・性別報告数

報告された風しん患者を性別で見ると、男性 60 人、女性 40 人と男性が女性の 1.5 倍であった。年齢階級別・性別で見ると、報告数が多いのは 1～4 歳の男性 (13 人)、50 歳の男性 (10 人)、45 歳～49 歳の男性及び 1 歳～4 歳の女性 (9 人) であった。



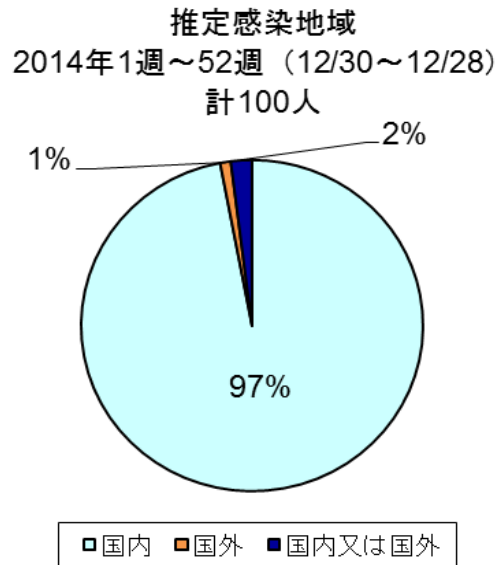
4. 年齢階級別・ワクチン接種歴別報告数

報告された風しん患者をワクチン接種歴別で見ると、2 回接種が 7 人、1 回接種が 22 人、接種なしが 28 人、不明が 43 人であり、接種なしと不明を合わせた割合は 71% であった。35 歳以上の患者では接種している者の報告はなかった。



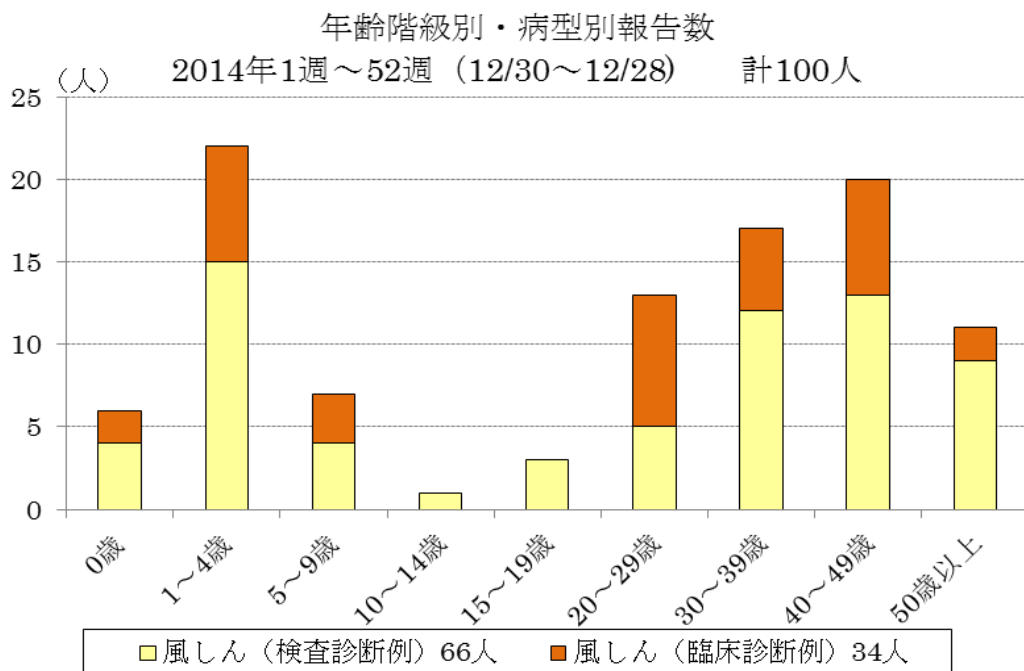
5. 推定感染地域

推定感染地域は「国内」が97人(97%)、「国外」1人(1%)、「国内又は国外」が2人(2%)であった。



6. 年齢階級別・病型別報告数

報告された麻疹患者を病型別でみると、検査診断例が66人、臨床診断例が34人と検査診断例の方が多かった。また年齢階級別・病型別でみると、20～29歳において臨床診断例の方が検査診断例を上回っていた。



7. 先天性風疹症候群（CRS）患者報告数

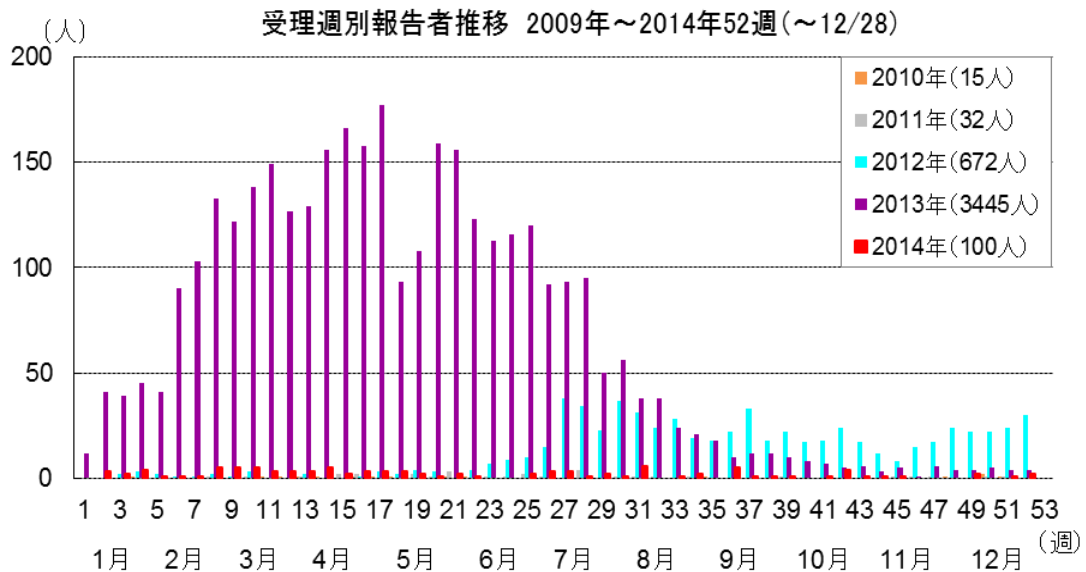
2014年の先天性風しん症候群（CRS）患者報告数は3人であった。母親が風しんを発症した妊娠週数は6週2人、8週1人であり、ワクチン接種歴を確認できた者は1人であった。

受理週	保健所名	性別	月齢	病型	母親が風しんを発症した妊娠週数	母親のワクチン歴	
2014年	2	墨田区	女	0	CRS典型例	8	不明
	4	世田谷	男	0	CRS典型例	6	不明
	9	大田区	女	3	その他	6	13歳(単抗原)

<参考>

1. 風しん患者報告数の推移（2011年～2014年）

過去5年間でみると、2012年23週（6月）頃から患者数が増え始め、翌2013年17週（4月）には1週間で150人以上の患者報告がなされる程の大流行となった。その後徐々に減り始め、48週（11月）頃から人数は少ないものの毎週報告が続いた。流行以前の2010年15人、2011年32人と比較すれば、2014年は累計患者報告数が最も多い年となった。



2. 先天性風しん症候群（CRS）患者報告数の推移（2005年～2014年）

過去10年間で先天性風しん症候群（CRS）患者が報告されたのは、2013年（13人）、2014年（3人）の2年間であった。

2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
0	0	0	0	0	0	0	0	13	3

(人)

3. 先天性風しん症候群患者報告数と風しん患者の推移(2012年～2014年)

報告された先天性風しん症候群（CRS）患者は、風しんが流行した2013年3月から2014年2月までの間に16人報告された。

